



サトリの ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗能勢妙見山住職
植田観樹さん

第27回

「ここ能勢妙見山には「星降りの伝説」があります。ある夜、山中に空から大きな光が降ってきました。村人たちが見に行くと、光り輝く中から「自分は妙見大菩薩である。自分を祀り崇めるならば、この地に幸せ、平和をもたらすであらう」と声がした、と。こうして妙見大菩薩が祀られ、人々の信仰を集めてきたとされています。妙見大菩薩は元は北極星の信仰に始まるものです。北極星は常に北を指し示していますよ。昔から旅人の指針として仰ぎ見られてきたことから、人生を正しい道に

導き、運を開いてくれる「開運の守護神」として信仰されてきたのです。そのため妙見大菩薩も開運の守護神として祀られてきました。

自然と歴史を感じながら 山歩きを楽しんで

「妙見大菩薩」の「妙」「美しい、清らか」、「見」「目で見るから転じて「姿形」という意味から、古くから人に見られる立場の方、芸事に携わる方からも信仰されてきました。今でも芸能関係の方がお参りにこられます。

また、当山一帯が自然と歴史を感じることが出来る場ということ、最近ではハイキングコースとしても人気です。山ガールの方もたくさんいらつしやいますよ(笑)。妙見山には7つの鐘があり、それをすべて鳴らしてお参りすると運命の人へ導いてもらえるという「7つの鐘伝説」もあります。宗教心がまったくななくても、「心が洗われた感じがします」とおっしゃる方も。むずかしいことは考えず、まずはいらしていただいで心と体で感じてもらえれば、と思つています。

右・右下／妙見山の「星降り伝説」を象徴する信徒会館「星嶺」。中には礼拝堂や写経体験スペースも。下／開運の守護神、北辰妙見大菩薩が祀られた開運殿(本殿)。



悩みを抱えている人の パワースポットになれば

私の祖父の時代、家庭に大変な事情を抱え、「私を殺してください」と訪ねてきた方がいたそうです。祖父は「死ぬつもりがあるなら、死ぬ気でやればきつとうまくいく」と諭し帰しました。その後その方は死ぬ気でがんばり、無事に過すことができたといっています。信仰とはそういうもの。もう死ぬしかない、辛い悩みを抱えている……そんなとき、この山を訪ねていただきたいのです。山の風に打たれ、しばらく世俗の思いを断ち切れば、自分を客観的に見て気持ちの整理ができるようになります。自然が持つ不思議な力を、自身の心で感じてみてください。

自然が持つ不思議なパワーを
心と体で感じてください

うえだ・かんじゅ 1948年、大阪府生まれ。1965年、16歳で得度。1972年に中央大学法学部卒業後、1976年に立正大学大学院文学研究科修士課程仏教学専攻修了。1983年より京都市右京区妙林寺住職。1992年より、能勢妙見山・関西身延真如寺住職となる。※能勢妙見山へは能勢電鉄妙見口駅下車、阪急バスまたは徒歩(約20分)で妙見ケーブルと妙見リフト乗継ぎ。